

# 時代にあった 暮らしやすいまちづくり



市では、少子高齢化や人口減少などの社会情勢の変化にも対応しつつ、市民の皆さんが健康かつ生きがいを持ちながら豊かな生活を営むことができる「時代に合った暮らしやすいまちづくり」に取り組んでいます。シリーズ市政の「今」。第27回は、このまちで心豊かに暮らすために必要な文化施設や都市公園、公共交通など都市環境の整備についてお知らせします。

## （仮称）西運動公園の整備

西運動公園は、多様な世代が快適にスポーツなどを楽しめる公園としての整備を図るため、質の高いスポーツ環境と誰もが心安らぐ憩いの場となるよう計画を策定するとともに、都市計画決定などの手続を進めてきました。平成29年度中の全面供用開始に向けて、サッカーや野球、グラウンド・ゴルフなどに対応する人工芝の多目的グラウンドや芝生公園の新設、駐車場の拡充などの整備を予定しています。

市では、今後も憩いと潤いの空間を創出する都市公園などをはじめとした暮らしやすいまちづくりの推進に取り組むとともに、市民の心豊かなスポーツライフの支援と併せ、さまざまなスポーツイベントなどの誘致による交流人口の拡大を図っていきます。

## 西総合会館へ機能を移転

昭和43年の開館以来、文化・芸術の拠点として利用してきた「市民会館」は、老朽化や耐震強度が現在の基準を満たしていないことなどから平成28年2月末で閉館します。このため、併設する西公民館と郷土資料館を西総合会館内に移転します（6ページに関連記事）。

郷土資料館は、舞鶴の誇れる歴史・文化遺産を来訪者へより広く紹介するためにサロンスペースの整備や本市ゆかりの人物を紹介する展示コーナー、外国人観光客のための外国語表記の展示サインなどの展示機能を全面リニューアルし、本年7月頃にオープンする予定です。

## 旧市民病院の跡地利用

このまちに暮らす市民がいつまでも健康

バー人材センターが移転。今後、西棟への文庫山学園、東公民館の移転集約と高機能化を検討。

◆民間活力の導入。不要となる施設は、維持管理費を削減するために解体・撤去し、民間活力の導入による「健康増進の拠点」と「にぎわいの拠点」など多くの人々が交流できるための整備を検討。

## 誰もが利用しやすい公共交通

昨年4月、第三セクター鉄道として営業してきた北近畿タンゴ鉄道（KTR）は、民間の資金とノウハウを活かし、経営改善とサービスの向上を図るため、上下分離による新体制（運行会社：VULBERTRANS（株）、施設保有会社：北近畿タンゴ鉄道（株））に移行し、「移動で世界を元氣」をビジョンとする「京都丹後鉄道」（丹鉄）に生まれ変わりました。丹鉄は、さまざまな企画きつぷの販売や観光列車「丹後あかまつ号」、レストラン列車「丹後くろまつ号」などの運行を通じて、地域住民と来訪者に愛される鉄道を目指しています。本市を含む沿線自治体は、安全に運行できるよう必要な支援を行うとともに、事業者と一体となって利用促進に取り組んでいます。

また、加佐診療所と市街地を結び、通院や外出を支援するバス路線「大江線」の実証実験期間を1年延長し、平成28年12月まで運行を継続。これは、加佐診療所まで同診療所が無料で運行している「巡回バス」を利用し、同診療所からは路線バスの「天



▲現在の市民会館



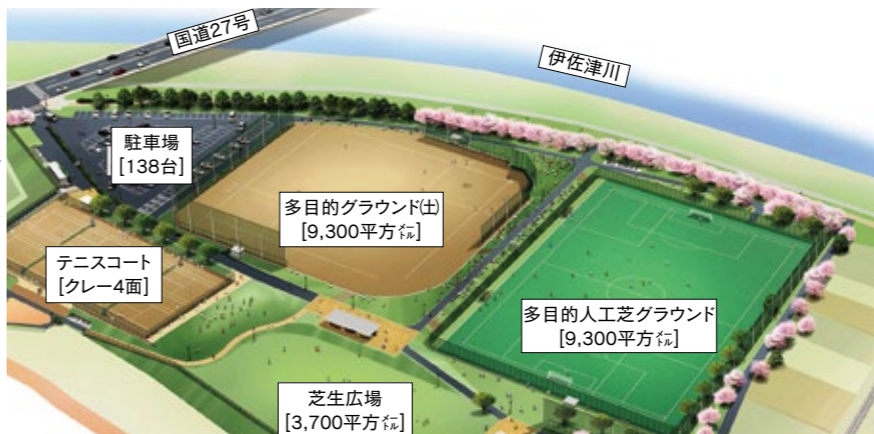
▲現在の郷土資料館

で元気に暮らせる「スマートウェルネスシティ（※）」をまちづくりの中核に位置付けるとともに、多様な世代の交流の活性化を推進するため、旧市民病院跡地を「市民の健康増進と多様な交流・賑わいの拠点」として整備を進めています。

これは、市民、有識者などによる市民病院跡地利用あり方懇話会（座長：宗本順三・京都大名誉教授）からの提言（平成26年3月）をもとに整備方針をまとめたもので、今後、公共施設の集約化・高機能化の基本的な内容や施設の解体・撤去に係る調査設計、民間活力の導入に向けた検討をしていきます。

## 今後の目指すべき方向性

◆旧市民病院の既存建物を転用して公共施設の集約化・高機能化・再配置に活用。すでに南・東棟に勤労者福祉センター、シル



▲（仮称）西運動公園完成イメージ図

※スマートウェルネスシティ  
身体面の健康だけでなく、人々が生きがいを感じ安心安全で豊かな生活を送れる社会のこと



▲旧市民病院跡地利用の完成イメージ図（案）



▲「海の京都」をイメージした京都丹後鉄道の特急「丹後の海」

## 10年・20年先の移動手段の確保へ

人口減少や少子化、高齢化が進展する中、将来にわたって活力ある地域を維持していくため、あらゆるまちの主体が一体となってまちづくりと公共交通機関の活性化に取り組む「舞鶴市公共交通ネットワーク会議」を平成27年10月に設置しました。この会議は、通学や通勤、通院、買い物、観光利用などにおける公共交通の全体的な利用促進策の活性化を、府北部地域連携都市圏の推進や地方創生の推進と連動して図るものです。

フェリーや鉄道、高速道路網などの広域交通・道路ネットワークの一体的な取り組みと併せ、地域間の人・モノの流動の拡大や環境社会への対応、高齢化社会に対応した10年・20年先の移動手段の確保など地域公共交通の未来に向けた課題に向き合い、将来のまちづくりを見据えた「公共交通の便利なまち・舞鶴」を目指して取り組んでいきます。



▲高齢者外出支援事業の乗車票

上：バス  
右上：京都丹後鉄道  
右下：タクシー



▲舞鶴市公共交通ネットワーク会議の様子